



福澤育林友の会

東京都港区三田2-15-45 慶應義塾 管財部

TEL03-5427-1050 FAX03-5427-1190

<http://www.f-ikurin.jp>



## 年頭にあたって

(財) 福澤記念育林会  
理事長 森 征一

あけましておめでとうございます。  
皆様にはお健やかな新年をお迎えのことと、お慶び申し上げます。

旧年中は、皆様にご協力とご支援をいただき、福澤記念育林会にとって充実した一年となりました。恒例の行事では、昨年6月のマリ・クリスティーヌさんをお迎えしての「森を愛する人々の集い」と9月に行われた山形への研修旅行は、ともに有意義でかつ楽しいものとなり大成功でした。これに加えて特記すべきは、昨年、森林環境の保全等による公益の増進に資する調査・研究を支援する基金が設置され、研究支援も海外派遣を含む本格的なものとなって、福澤記念育林会が大きく成長できたことです。皆様に深く感謝申し上げます。

昨年は、福澤記念育林会の将来を考える上でも、また、私にとっても、有益で思い出深い年となりました。8月に、慶應義塾創立150年記念未来先導基金プログラムの一環として行われた、「学部横断環境プロジェクト」による、塾生の中国瀋陽市訪問に同行するという貴重な体験をさせていただきました。このプロジェクトの提唱者である前商学部長の桜本光教授のお誘いがあり、瀋陽市政府を公式訪問となったものです。

慶應義塾は、1999年以来、瀋陽市と協力して、同市康平県で、以前は砂丘であった場所に、幅100メートル、長さ100キロの植林活動に取り組んでいます。防風、防砂林を築くことが目的です。樹種は、成長が早いといわれるポプラで、植林はすでに45キロまで進んでいるということです。

今年は、1997年に地球温暖化対策として決議された京都議定書の実行期間(2008~2012年)がスタートする年です。わが国に義務づけられた温室効果ガスの排出量6%削減の国際的約束を確実に達成するためには、排出削減とともに、植林などによって温室効果ガスを吸収する森林を増加させる努力も大切です。

福澤記念育林会は、これまで国内を中心に植林を行ってきましたが、慶應義塾が今年創立150年を迎えるのを節目に、地球環境保全という視点から海外にも目を向け、海外植林を実施している団体とも連携しながら、「環境の世紀」といわれるこの21世紀において、温暖化防止のために些かなりとも貢献できるよう、さらに発展していけたらと願っています。

最後になりましたが、この一年が皆様にとりまして幸多き年でありますよう、心からお祈りいたします。



## 福澤記念育林会の第6回研修旅行「山形の旅」の思い出

羽倉 信明

何年か以前、ある6月の週末に急に思い立って、東京から山形へ車で出掛けたことがありました。まったく、行き当たりバッタリの旅でしたが、山影を映す水田に、また、豊かな緑に、「美しい日本の原風景はここにある」とすっかり気に入ってしまいました。

その山形への研修旅行には是非にと思い、参加させて頂きました。

岸様のお力のお陰で、期待に違わぬ盛り沢山且つ有意義な研修旅行でした。

数々印象に残るものがありますが、何といても、みごとな金山杉の森林と、また、金山の町そのものが実に魅力的でありましたことが、忘れられません。



明治期の英国の旅行家に感動を与え、記述させた、町の周辺の景観は今に残ります。そして町並みは、自然を生かしつつ、歴史を生かしつつ、人々が生活する場の「水と緑と空間」を、言わば、演出していこうとする、町としての意図が、美しく感じられて、気持ちの良いものでした。

「金山住宅」や金山川にかかる「きごころ橋」の「木」の持つ温かみは、人の生活と自然の調和、古来の日本の知恵を現していました。



町のお店の数々も、本当に親しみを覚えさせる構えで、「蕎麦屋さん」「家具屋さん」「魚屋さん」などと「さん付け」で呼びたくなるお店でしたし、金融機関の店舗も、ちゃんと通りの雰囲気溶け込んでいました。また、旧郵便局の建物が残され、生かされていたのも楽しいものでした。



個人のお屋敷のお庭を通り抜けられるなどという経験も出来ました。

「公益」という言葉が一つのテーマとなった今回の研修旅行でしたが、金山の町のお宅の表札に「赤十字社員」の多さを知ることが出来ました。「公益」という意識の強い土地柄なのでしょうか、良き指導者の存在を思いました。良き人がいての良き町なのでしょう。

さて、最近のこと、友人の一人から、一冊の本を薦められました。フェラーリのチーフ・デザイナーを務めるなどした、世界的デザイナー、奥山清行氏の著書で大変おもしろく読みました。ところで同氏は山形ご出身で、山形から直接世界を相手にデザイン、情報の発信をしようとしておられます。勿論、地元の物産を利用した製品です。もっと木を利用した製品を！と思いました。

また、これも極く最近、新聞の小さな囲み記事に「どじょうの叩き揚げ、金山町の名物」を見つけて、食べ損なったな、などと思いました。

「山形」とか「金山」という文字に敏感に反応している自分を発見して、これも山形研修旅行の成果かと、おもしろく、喜んでおります。



アレンジして下さいました皆様方に改めて厚く御礼を申し上げます。

有難うございました。

## 平成20年度「研修旅行」の予定

静岡県修善寺の「幼稚舎の杜」で幼稚舎生と一緒に植林を体験してもらおう研修旅行(1泊2日)を予定しております。

計画は、平成21年3月上旬の土～日曜日で、1日目は幼稚舎の杜での植林、夜は伊豆の美味しい海鮮料理を味わい、温泉でくつろいでいただき、2日目は伊豆の名所を旅したいと思っております。

まだ計画の段階でスケジュール等の調整を行っている最中でありますので、決定次第、友の会ニュースおよびホームページで皆様に案内させて頂きます。ご期待ください。

---

## 福澤記念育林基金の平成19年度採択決定

---

福澤記念育林基金は、新たに昨年設置して、第1回目とあって募集方法に工夫を重ね、ホームページをはじめ、旧国立大学・私立大学の山林・林業、環境、木材等の研究をしているところに郵送するなどして募集を行い、多くの方々から申請がありました。9月末に締め切り、10月中旬に選考委員会で慎重に審査しました。

平成19年度募集の結果については、以下の通りです。

(活動支援)

応募 3件

採択者 慶應義塾藤沢中・高等部 代表者；江口 芳夫氏

テーマ；「湘南藤沢(SFC)における樹木の同定と胸高直径の測定継続によるSFCにおけるCO2同定量の概算」

(研究支援)

応募 12件

採択者 筑波大学大学院生命環境科学研究科 代表者；小幡谷 英一氏

テーマ；木管楽器材料の国産化を目指した高密度円筒LVLの開発」

今回の応募では、甲乙付けがたいなかで上記のテーマを採択しました。

採択された方々の活動、研究成果に期待されます。また、今回残念ながら不採択になった方々は、更なるチャレンジをお願いいたします。

---

## 平成20年度「森を愛する人々の集い」の案内

---

2008年度の「森を愛する人々の集い」は6月14日(土)午後3時00分から北館ホールで開催の予定です。講演者に千住明氏をお迎えします。幼稚舎より慶應義塾で学び、慶應義塾大学工学部を経て東京芸術大学作曲科卒業、同大学院の修了作品「EDEN」(1989)は、東京芸術大学大学美術館(芸術資料館)に永久保存されています。編曲やプロデュースなど幅広く活躍され、特にドラマ音楽を手がけられ「映像音楽の魔術師」と称されることもあるほどで、「風林火山」等数々のドラマ、映画などのテーマを手がけられています。この機会に多数の方々にご参加いただき、千住明氏のお話を聞いていただければと思います。皆様の参加をお待ちいたしております。



---

## 修善寺幼稚舎の杜

---



毎年、幼稚舎生により静岡県伊豆市修善寺の「幼稚舎の杜」で植林が行われており、平成11年から始まり今年でもう9回目を迎えるようとしております。昨年の植林(第8回)の感想文を幼稚舎生が書いてくれましたのでその中から3点をご紹介します。

### 小さな木の命を植える(4年I組 山本 龍之介)

僕は3月3日の土曜日に、静岡県にある「幼稚舎の杜」という場所に行った。そこでは、クヌギの木の苗木を植えた。

そこは緑が多く、空気がとても新鮮だった。東京とは一転して、まるで別世界にでも来たようだった。同じ日本の中でもこんなに環境の違う所があるのだな、と改めて思った。緑の山の中をバスで進んでいって、最初に僕たちの先輩方が6年前から雨にも負けず風にも負けず育ってきたなあと思うと(とても気持ちが強くてたくましい木だなあ)と思った。小さな木でも大きな木になるまで沢山試練があるから、これからもたくまし



く育ててほしいと思った。

次はいよいよ僕たちが小さな木の命を植える番だ。僕たちが木を植えに行った場所は、何と周りは緑が沢山あるのに、植林に行った場所だけ緑がほとんどなかった。なぜなのか分からなかった。ちょっとした疑問になった。その話は置いておいて、僕たちは全部で5本の木を植えた。全部ちゃんとした命だから、心をこめて植えた。その中でも1本を本当に心をこめて植えた。(大きくなってたくましい木になってくれ)とずっと思いながら植えた。根の方に枯葉があると枯れてしまうから、ちゃんととって育ちやすい環境にしてあげた。

僕が植えた木がもしも将来大きな木になって、何かしら人の役にたったらとてもうれしい。僕が植えた木を飢えた所は緑がほとんどなくて、とても悲しくて、さびしい所だったけれども、僕たちが、植えることによって、将来緑が沢山になると思う。だからそこに植える木は大事にしないといけない！僕たちは将来あそこが緑でいっぱいになる事を願いながら植えた。

小さな命でも育てれば大きな命になるのだから、生きているものは大切にしていけないといけないのだなということを、この植林の企画で学んだ。

### 自然と向き合う貴重な体験（5年K組 鈴木麻理奈）

昭和19年に幼稚舎が疎開してから63年。ゆかりのある修善寺で植林をしました。私は何回も宿泊をしているので、私にとっても大切な場所です。

最初に、平成11年に植えた木の生長を調べました。ほとんどの木の円周は30~50cmくらいです。けれど、南側に太い木がある傾向にありました。次に木の植え方です。掘ってある穴を見つけ、その穴に木の苗を入れて（落ち葉が入ると乾燥してしまい根が上手く張らない）土をかぶせ、空気が入らないように土を足でふみかためます。簡単だったけど、本当だったら植える所も、木の苗も自分で探さなくてはいけないので、大変だと思いました。最後に、切った木の穴にしいたけの駒を入れました。金づちで「コットン、コットン」と木琴のメドレーのように打っていました。この丸太にしいたけがどうやって育つか見てみたいと思いました。



木は二酸化炭素を吸い、酸素を出してくれるととてもありがたい植物です。地球温暖化も防ぐし、山に木を植えると土を強くして、土砂くずれが起きにくくなります。けれど、植えた木がすべて立派な木になるとは限りません。根がうまく張らないこともあるからです。これは、温暖化にも繋がるので、木を切らなくてもいいよう、また良い質の紙を作ってもらおうよう、もっと研究すべきだと思います。

この植林を通して、理科室では体験できない自然と向き合う貴重な体験をしました。また、植林を通じて環境問題、生活上でのマナー等を学びました。たくさんのお木を植え、立派に育て、酸素を出し、世界の人々が気持ちよく呼吸できるようにしたいと思います。

### 苗木は強風に耐えてくれたかな（5年K組 宋あさひ）



3月3日、第8回「修善寺幼稚舎の杜植林」に参加しました。修善寺は戦時中、幼稚舎生が疎開した所だそうです。

幼稚舎の杜から眺める景色は最高です。そんな素敵な所での植林に去年の第7回、今年の第8回と続けて参加できて満足していたのですが、植林が行われた2日後、日本各地で台風のような強風が吹き荒れました。ニュースでは、春の嵐の影響でけがをした人が何人もいたと伝えていました。ニュースを聞きながら、私は植林したばかりの小さなクヌギの苗木が心配になりました。

私が植えた苗木は5本です。(大きく立派な木になってね)と心の中で声をかけながら深さ20~30cm位の穴に苗を入れて、土をかけ丁寧に植えました。苗木の太さは小指位です。せいぜい直径1~1.5cm位のまだまだ細くて小さな木なので、強風で抜けたり倒れたりしていないか気になって仕方ありませんでした。(大丈夫、大丈夫。しっかり土を踏み固めたから倒れたりしない。キット大丈夫)と心の中で自分に言い聞かせました。

私たちが植えた苗木は立派になるために、植林した後も大切に管理されるそうです。幼稚舎の杜を守ってくださっている方々は、苗木が大きく成長するまで、枯れたりしていないか、順調に育っているか見て回り、草を刈ったり、水をあげたりして色々な管理をしてくれています。台風や強風、大雨、日照り、山火事などいつも気かけながらの管理は、とても大変なことだろうと思います。

8年前の平成11年3月、第1回目に先輩たちが植えた木は今回測定したら幹の周囲が40cm後半から50cm位になっていました。木の高さは見上げるほどなので2m以上。直径1cmほどの苗木が8年間で直径13~15cmにもなっていて、こんなに大きくなるんだなあと感じてしまいました。

今回植えた苗木は植えられた途端に強風にあいましたが、どうか順調に育ててほしいと思います。私たちが20歳になる頃には、第1回目の木のように大きくなっているはずです。今回一緒に植林に参加したK組のみんと見に行けたら、素敵だろうなあと思います。